

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	膵癌術前化学療法例における胆道ドレナージの治療成績
研究責任者	聖隷浜松病院 消化器内科 小林 陽介
研究実施体制	聖隷浜松病院 消化器内科 玉腰 裕規、遠藤 茜、小林 郁美、志田 麻子、丹羽 智之、江上 貴俊、山田 洋介、海野 修平、鏡 卓馬、木全 政晴、芳澤 社、室久 剛、長澤 正通、細田 佳佐
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2021年10月
対象者	2018年1月から2020年12月までの間に聖隷浜松病院消化器内科で膵癌術前化学療法を行った症例で胆道ドレナージを施行した患者
研究の意義・目的	切除可能膵癌に対し、術前化学療法を行い病勢制御したうえで手術を施行する方法が標準療法となってきました。膵頭部の病変では、胆道閉塞を伴い、ERCP等での胆道ドレナージを必要とすることがあります。しかし、術前化学療法中にドレナージ不良となり、再治療が必要となることもあります。留置する胆管ステントに関しては、プラスチックステントもしくは金属ステントがありますが、どのようなドレナージ法がよいのかは検討する必要があります。今回当院で膵癌術前化学療法症例に対し胆道ドレナージを行った症例に関して調査することで、ドレナージの現状、有用性、今後の課題等に関し検討します。
研究の方法	【方法】対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行う。 症例の年齢、性別、病変部位、胆管ステントの留置部位、ストンの種類、ステントの開存期間、偶発症、化学療法の種類・治療期間、治療後経過、手術内容等に関して
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 消化器内科 (氏名) 小林 陽介 TEL:053-474-2222(代表) 消化器内科外来 9:00~17:00 平日